

杉浦楠陰 すしうら はんいん 儒者。嘉永元年二月十八日近江國膳所生れ、明治二十一年十一月二十四日歿（八四一八八）。諱止臣、道稱退藏。藩儒杉浦甚亭の長子。元治元年十七歳の折、京都蛤御門の變に藩命で飛鳥井球を警護。その後江戸で桃井香藏に剣を學び、次で京に出て巖垣月洲に入門、塾頭となつた。明治四年歸郷して藩黨海峯堂の寮長。廢藩後の六年上京、大藏省、内務省、文部省に勤めた。杉浦重剛の兄。

遺稿『楠陰殘筆』（明治二十一年十一月二十八日永元意藏編輯）。